



国際コーヒー価格は月末に反転上昇を見せたが月次平均は依然として最低レベルである

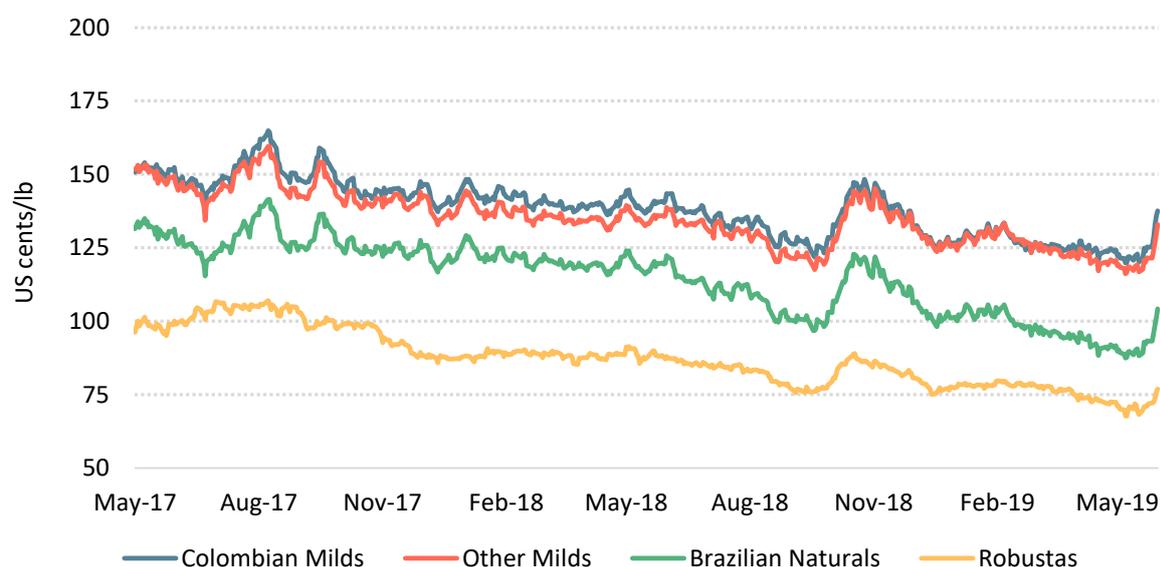
2019年5月のICO複合指標価格月次平均は93.33米セント/ポンドで、2019年4月を1.2%を下回った。しかし、5月の最終2週間は日次指標価格の上昇により下落傾向は急激に反転した。2019年2月18日以降、5月30日および31日に初めて100米ドル/ポンドを超え、それぞれ101.17米セント/ポンドおよび103.25米セント/ポンドをつけた。2019年4月の世界のコーヒー輸出は前年同期比4.6%増の1,073万袋、また2018/19コーヒー年度最初の7ヶ月間の輸出は7,401万袋で2017/18年同期間は7,089万袋だった。過去5年間、コーヒー需要は年平均2.2%の割合で増加しているが、2018/19年度の世界のコーヒー生産は需要を341万バッグ上回ると予想され、2年連続の供給過剰である。

図 1: ICO複合指標価格



ICO複合指標価格の月次平均は2019年5月に93.33米セント/ポンドに下落し2019年4月より1.2%低かったが、最終2週間は下降トレンドからの急激な反転を見せた。日次の複合指標価格は5月7日に最安値89.31米セント/ポンドまで下げたが、5月30日と31日にそれぞれ101.17USセント/ポンドと103.25USセント/ポンドまで上げた。2019年2月18日以降で日次の複合指標価格が100米セント/ポンドを超えたのは今回が初めてである。ブラジルのニュークroppが悪天候により影響を受けるとの報道や5月下旬のブラジルリアル為替高などの市場のファンダメンタルズが5月の日次指標価格が反転上昇した主要因である。

図 2: ICOグループ指標価格

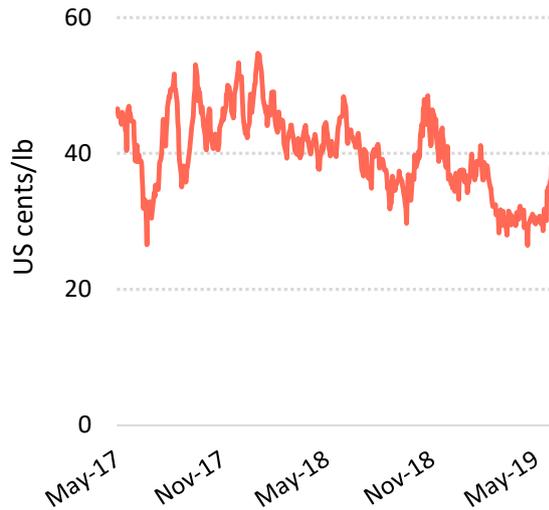


© 2019 International Coffee Organization (www.ico.org)

コロンビアマイルドが124.40米セント/ポンドと安定していたことを除き、2019年5月は全てのグループ指標価格の月次平均が下落した。ロブスタは最大の下げを示し71.12米セント/ポンドで2019年4月対比2.9%より低い。ブラジルナチュラルは0.6%下げの91.95米セント/ポンド、アザーマイルドは0.5%下げの120.55米セント/ポンドである。アザーマイルドの下落によりコロンビアマイルドとアザーマイルドの価格差は3.85米セント/ポンド4月対比17%拡大した。

ニューヨークとロンドンの先物市場で測定されるアラビカとロブスタのアービトラージは5月、7.1%上昇して32.41米セント/ポンドとなったが過去5年間の平均である54.76米セント/ポンドを依然として下回っている。ICO総合指標価格の変動率 (intra-day volatility) はすべてのグループの変動率が上昇したため、0.8ポイント上昇し7.1%となった。コロンビアマイルドとアザーマイルドの変動率は共に0.3ポイント上昇してそれぞれ6.6%と6.8%、ブラジルナチュラルは0.4ポイント上昇して8.9%、ロブスタは2ポイント上昇して7.4%である。

図 3: ニューヨークとロンドン先物市場のアービトラージ



© 2019 International Coffee Organization (www.ico.org)

図 4: ICO複合指標価格の30日移動平均価格変動率



© 2019 International Coffee Organization (www.ico.org)

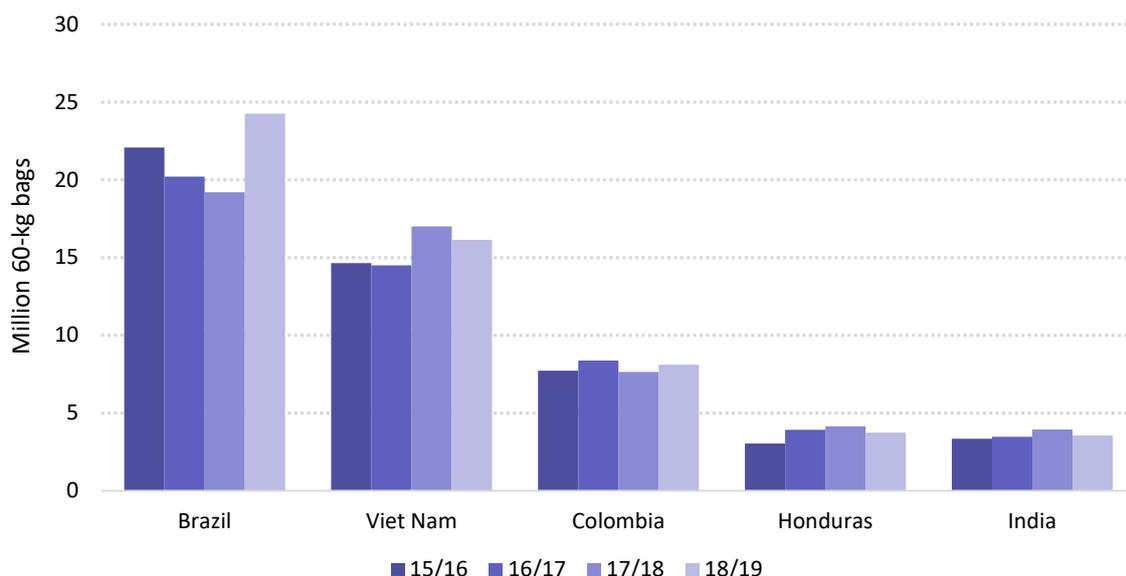
2019年4月の世界コーヒー輸出量は前年同期対比4.6%増の1,073万袋である。ブラジルナチュラルは、ブラジルの2019年4月輸出量が24.6%増加し296万袋に達した結果、17.7%増の314万袋となった。コロンビアマイルドの輸出量は111万袋、ロブスタは391万袋で、それぞれ2.1%、0.5%の増加である。しかしアザーマイルドは1.6%減の257万袋だった。

2018/19コーヒー年度最初の7ヶ月間における世界のコーヒー輸出量は7,401万袋に達し2017/18年度同期間の7,089万袋を上回っている。2018年10月から2019年4月まで輸出量はブラジルナチュラルが18.5%増の2,486万袋、コロンビアマイルドが8%増の907万袋である。しかし、ロブスタの輸出量は前年同期対比0.3%減の2,060万袋、またアザーマイルドは8.9%減の1,397万袋だった。

ブラジルの2019年4月の輸出量は2018年4月の239万袋に対し298万袋で、うちアラビカ生豆が252万袋、ロブスタ生豆が約197,000袋だった。2018/19コーヒー年度最初の7ヶ月間の輸出量は26.3%増加し2,426万袋に達した。ブラジルの2018/19クロップイヤーにおける生産量は18.5%増の6,250万袋であり4月開始の新穀供給が寄与している。2019/20年度クロップは稔年ながら豊作が見込まれているが最近の悪天候報道により豊作予想は沈静化している。

ベトナムの2019年4月輸出量は240万バグと予想され2018年4月対比5.9%減である。2018/19コーヒー年度最初の7ヶ月間の輸出量は1,615万袋と推定され、これは2017/18年度同期間より5%少ない。2018/19年度のベトナムの生産量は3.4%減の2,950万袋と推定され、灌漑用の水不足と価格低迷による農家の投資意欲減退がコーヒー生産性に悪影響を与えている。収穫量の減少および他の主要ロブスタ輸出国との競争激化が2018/19年度の輸出減少の要因である。

図 5: 10月から5月までの輸出量



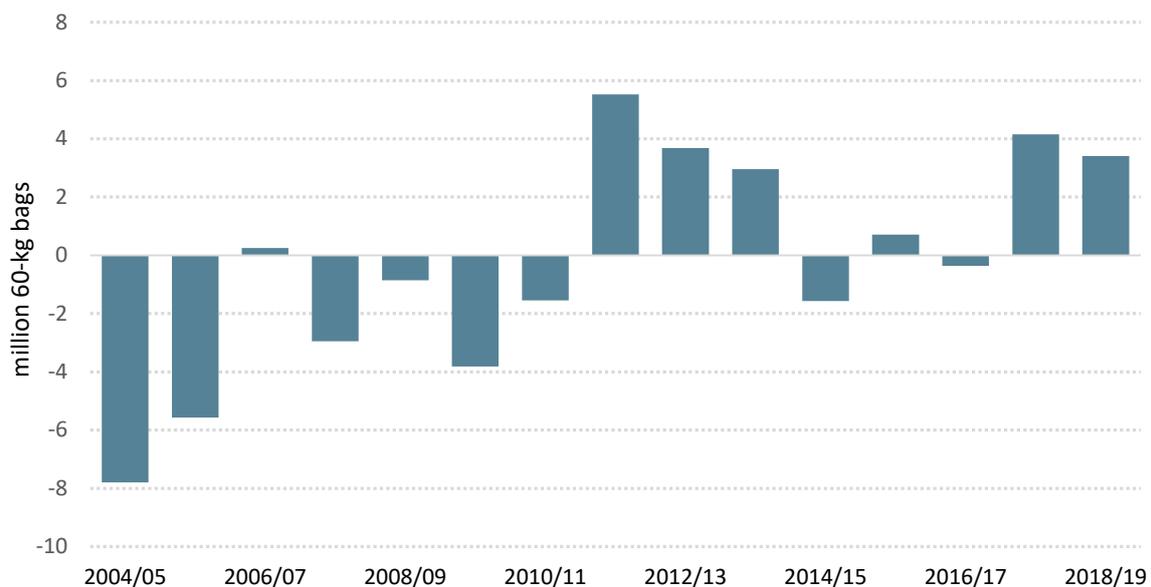
© 2019 International Coffee Organization (www.ico.org)

コロンビアの2019年4月の輸出量は前年同期対比4%増の967,000袋だった。2018年10月から2019年4月までの7ヶ月間の輸出量は前年同期対比6.2%増の811万袋である。2018/19年度のコロンビアの輸出はその46.5%がアメリカ向け、次いで日本とドイツがそれぞれ7.5%と7.4%を占めている。FNCコロンビアコーヒー生産者連合によると2018年10月から2019年4月までの7ヶ月間の生産量は820万袋と見込まれ、これは前年同期の819万袋に匹敵する。2018/19年度の実生産量は1,420万袋と見込まれ曇天と降雨が続いた前年度を2.7%上回る。

ホンジュラスの輸出量は2019年4月、過去5ヶ月の減少から脱して前年同期対比16%増の933,537袋だった。ドイツと米国が4月の輸出全体の50.6%を占めている。しかし2018/19年度最初の7ヶ月間では、ホンジュラスの輸出量は前年同期の415万袋に対して9.7%減の375万袋である。生産量は過去4年間増加したが今シーズンは1.5%減の745万袋と推定されている。背景に、コーヒー価格の下落により農家が収穫作業に要する人件費を負担する余裕が無くなって来ていることがある。

インドの2019年4月輸出量は前年同期対比10.7%減の598,240袋、また2018/19年度最初の7ヶ月間においても9.9%減の355万袋だった。2019年4月の主な輸出先はイタリア、ドイツ、ロシアである。2018/19年度のコffee生産量は520万袋と推定されているが2017/18年度に比べて10.5%の減少、また過去5年間で最も低い水準である。昨年夏の終わりに発生した大雨と洪水が2018/19年度生産に悪影響を与えている。国内消費の増加と相まって生産量の減少は輸出可能なコーヒーの減少を招いている。

図 6: 世界コーヒー需給ギャップ



© 2019 International Coffee Organization (www.ico.org)

2018/19年度の世界コーヒー生産量は1億6,805万袋と推定され、2017/18年度より1.5%増加する見込みである。消費は2%増の1億6,464万袋と予想され、コーヒー輸出国での国内消費も1.3%増の5,026万袋と見込まれている。コーヒー需要は過去5年間で年率平均2.2%で増加しているが、2018/19年度のコーヒー生産は消費を341万袋超過すると予想され、2年連続の供給過剰である。

表 1: ICO 指標価格と先物価格 (US cents/lb)

	ICO Composite	Colombian Milds	Other Milds	Brazilian Naturals	Robustas	New York*	London*
Monthly averages							
May-18	113.34	140.26	135.61	119.57	88.74	122.50	79.85
Jun-18	110.44	138.55	134.03	115.10	86.07	120.19	77.40
Jul-18	107.20	133.92	130.60	110.54	84.42	114.06	75.56
Aug-18	102.41	129.99	125.21	104.46	80.74	108.12	71.94
Sep-18	98.17	125.74	121.18	99.87	76.70	102.83	68.03
Oct-18	111.21	140.83	137.34	115.59	85.32	119.73	77.16
Nov-18	109.59	139.27	137.11	113.27	83.52	117.06	75.23
Dec-18	100.61	127.86	127.10	102.10	77.57	105.79	69.59
Jan-19	101.56	129.28	128.46	102.94	78.24	107.93	70.32
Feb-19	100.67	127.93	128.45	100.06	78.65	104.12	70.52
Mar-19	97.50	125.23	123.89	95.81	76.96	98.84	68.61
Apr-19	94.42	124.42	121.13	92.47	73.28	95.31	65.06
May-19	93.33	124.40	120.55	91.95	71.12	94.86	62.45
% change between Apr-19 and May-19							
	-1.2%	0.0%	-0.5%	-0.6%	-2.9%	-0.5%	-4.0%
Volatility (%)							
May-19	7.1%	6.6%	6.8%	8.9%	7.4%	10.0%	8.7%
Apr-19	6.2%	6.3%	6.5%	8.5%	5.4%	8.7%	6.0%
Variation between Apr-19 and May-19							
	0.8	0.3	0.3	0.4	2.0	1.3	2.7

* Average price for 2nd and 3rd positions

表 2: 価格差 (US cents/lb)

	Colombian Milds	Colombian Milds	Colombian Milds	Other Milds	Other Milds	Brazilian Naturals	New York*
	Other Milds	Brazilian Naturals	Robustas	Brazilian Naturals	Robustas	Robustas	London*
May-18	4.65	20.69	51.52	16.04	46.87	30.83	42.65
Jun-18	4.52	23.45	52.48	18.93	47.96	29.03	42.79
Jul-18	3.32	23.38	49.50	20.06	46.18	26.12	38.50
Aug-18	4.78	25.53	49.25	20.75	44.47	23.72	36.18
Sep-18	4.56	25.87	49.04	21.31	44.48	23.17	34.80
Oct-18	3.49	25.24	55.51	21.75	52.02	30.27	42.57
Nov-18	2.16	26.00	55.75	23.84	53.59	29.75	41.83
Dec-18	0.76	25.76	50.29	25.00	49.53	24.53	36.20
Jan-19	0.82	26.34	51.04	25.52	50.22	24.70	37.61
Feb-19	-0.52	27.87	49.28	28.39	49.80	21.41	33.60
Mar-19	1.34	29.42	48.27	28.08	46.93	18.85	30.23
Apr-19	3.29	31.95	51.14	28.66	47.85	19.19	30.25
May-19	3.85	32.45	53.28	28.60	49.43	20.83	32.41
% change between Apr-19 and May-19							
	17.0%	1.6%	4.2%	-0.2%	3.3%	8.5%	7.1%

* Average price for 2nd and 3rd positions

表 3: 世界のコーヒー需給バランス

Coffee year (October to September)	2014	2015	2016	2017	2018*	% change 17/18 to 18/19
PRODUCTION	149 932	156 153	157 402	165 540	168 047	1.5%
Arabica	87 064	93 402	99 676	101 032	103 714	2.7%
Robusta	62 902	62 751	57 726	64 508	64 369	-0.2%
Africa	15 983	15 734	16 718	17 497	17 740	1.4%
Asia & Oceania	46 274	49 323	45 299	49 156	48 177	-2.0%
Mexico & Central America	17 188	17 237	20 466	21 828	21 715	-0.5%
South America	70 486	73 859	74 919	77 059	80 415	4.4%
CONSUMPTION	151 505	155 443	157 768	161 381	164 636	2.0%
Exporting countries	46 505	47 500	48 458	49 605	50 257	1.3%
Importing countries	105 000	107 943	109 310	111 777	114 379	2.3%
Africa	10 802	11 103	10 767	10 895	11 127	2.1%
Asia & Oceania	31 950	32 863	34 114	35 325	36 854	4.3%
Mexico & Central America	5 146	5 144	5 174	5 257	5 208	-0.9%
Europe	51 008	52 147	52 043	52 999	53 554	1.0%
North America	27 645	28 934	29 559	29 941	30 685	2.5%
South America	24 954	25 251	26 111	26 964	27 209	0.9%
BALANCE	-1 573	711	-366	4 159	3 411	

In thousand 60-kg bags

*preliminary estimates

Note: Data on crop year production can be found at www.ico.org/trade_statistics.asp

表 4: 輸出国の総輸出货量

	Apr-18	Apr-19	% change	October-April		
				2017/18	2018/19	% change
TOTAL	10 253	10 726	4.6%	70 891	74 007	4.4%
Arabicas	6 364	6 817	7.1%	44 728	47 913	7.1%
<i>Colombian Milds</i>	1 083	1 105	2.1%	8 405	9 074	8.0%
<i>Other Milds</i>	2 615	2 572	-1.6%	15 334	13 974	-8.9%
<i>Brazilian Naturals</i>	2 666	3 139	17.7%	20 989	24 864	18.5%
Robustas	3 889	3 909	0.5%	26 163	26 094	-0.3%

In thousand 60-kg bags

Monthly trade statistics are available on the ICO website at www.ico.org/trade_statistics.asp

表 5: ニューヨークとロンドン先物市場の認証在庫

	May-18	Jun-18	Jul-18	Aug-18	Sep-18	Oct-18	Nov-18	Dec-18	Jan-19	Feb-19	Mar-19	Apr-19	May-19
New York	2.28	2.33	2.33	2.51	2.70	2.78	2.79	2.80	2.82	2.83	2.84	2.81	2.75
London	1.34	1.14	1.28	1.26	1.51	1.58	1.77	1.88	2.08	2.01	1.97	1.98	2.11

In million 60-kg bags

=== 海外情報トピックス ===

2019年6月海外情報トピックスは、5月に引き続きICO国際コーヒー機関が作成公表した調査研究レポート；

「SURVEY ON THE IMPACT OF LOW COFFEE PRICES ON EXPORTING COUNTRIES (January 2019)」；

価格の下落がコーヒー輸出国に与える影響に関する調査（2019年1月実施）

をご案内いたします。

本調査研究レポートは、ICO理事会決議465（※）を実施するために事務局が行った行動の一環として、国際コーヒー価格の著しい下落がコーヒー生産国に与えるさまざまな経済的および社会的影響に関する情報をICO加盟輸出国から収集し、価格下落がコーヒー生産者の生活に生ずる問題を包括的に検証評価したものです。

調査に対する回答情報は2019年1月31日までに収集され、ブラジル、カメルーン、コロンビア、コスタリカ、エルサルバドル、ホンジュラス、ニカラグア、パプアニューギニア、ペルー、ルワンダ、シエラレオネ、タンザニア、ウガンダの13カ国から報告されていますが、これらの国々は、世界のコーヒー生産量の平均56%、全輸出国の総輸出量の約60%を占めています。

（※）

ICO理事会決議465（2018年9月）の原文は7項目で構成されていますが、その内容はICO事務局により大きく次の4つのカテゴリーに整理されています。

1. コーヒーのバリューチェーンのすべての利害関係者、特に焙煎業界を含めた対話を促進しコーヒーを生産する人々の経済的存立を確保する。
2. Coffee Crisisに関連したトピックに関する高レベルで透明性のある独立した研究とデータを作成する。
3. コーヒーの消費、特にコーヒー生産国における国内消費を促進する。
4. 世界中のコーヒー生産者の実情・窮状に注意を喚起するため、消費者に焦点を絞ったコミュニケーション計画を含む支援措置を実施する。

上記2に関してICOは3つの大規模な調査研究を実施しそのレポートを2019年3月に公表しています。

- ① 「選択されたラテンアメリカ3国におけるコーヒー生産事業の収益性について - 中間報告」
- ② 「価格の下落がコーヒー輸出国に与える影響に関する調査（2019年1月実施）」
- ③ 「先物市場：非商業トレーダーの役割」

今回ご案内したトピックスは上記の②です。

また①は2019年5月海外情報トピックスでご案内いたしました。

会員各位のご参考となれば幸いです。

価格の下落がコーヒー輸出国に与える影響に関する調査
(2019年1月実施)

I. コーヒー価格の歴史的および最近の動き

1. 2016年11月に145.82USセント/ポンドだったICO複合指標価格は、2018年12月には100.61米セント/ポンドまで31%下落した(図1)。 (以下、米セント/ポンドはセントと記載)



Source: ICO

2. 4つのグループ指標価格が揃って下落傾向を示している。コロンビアマイルドは2016年11月の177.85セントから2018年12月の127.86セントへ28.1%下落した。アザーマイルドは31%下げて184.12セントから127.10セントへ、ブラジルナチュラルは35.3%下げて157.72セントから102.10セントへ、またロブスタは25.2%下げて103.72セントから77.57セントへ下落した(図2)。価格低迷は先物市場も同じ状況であり、ニューヨーク先物は36%の下落、ロンドン先物は27.1%下落している(図3)。

図2: グループ指標価格

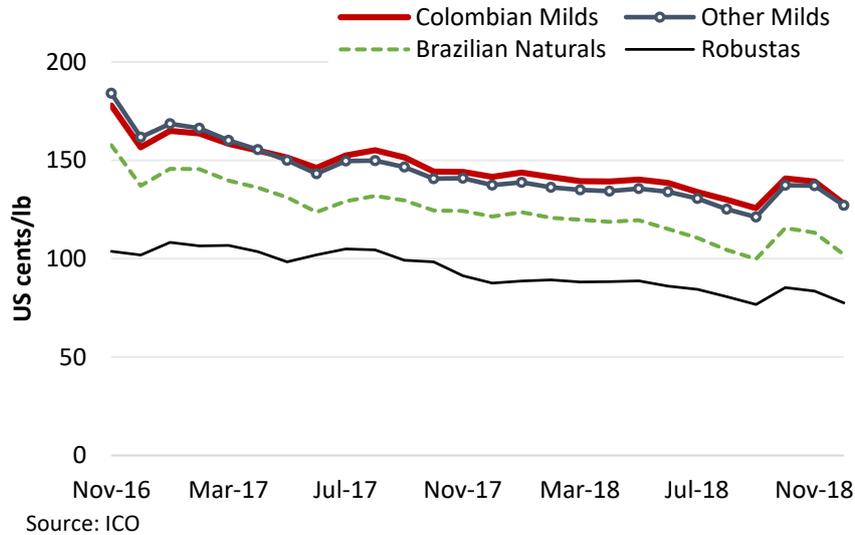
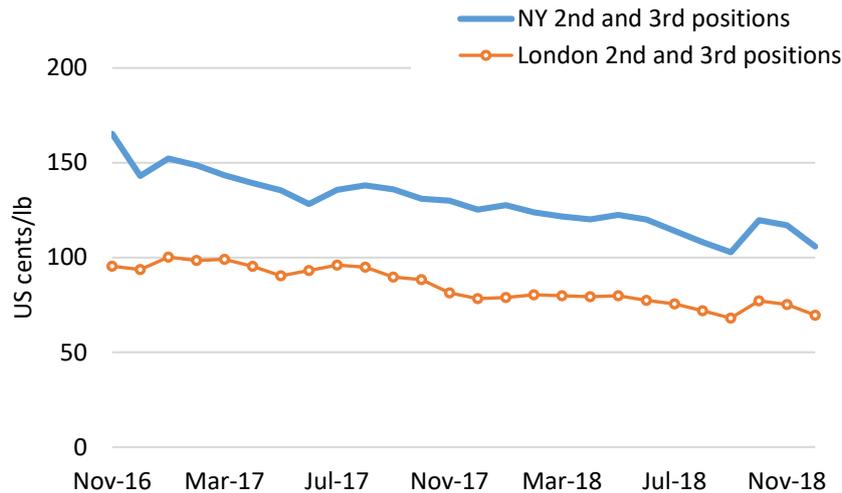


図3: ニューヨークとロンドンの先物価格



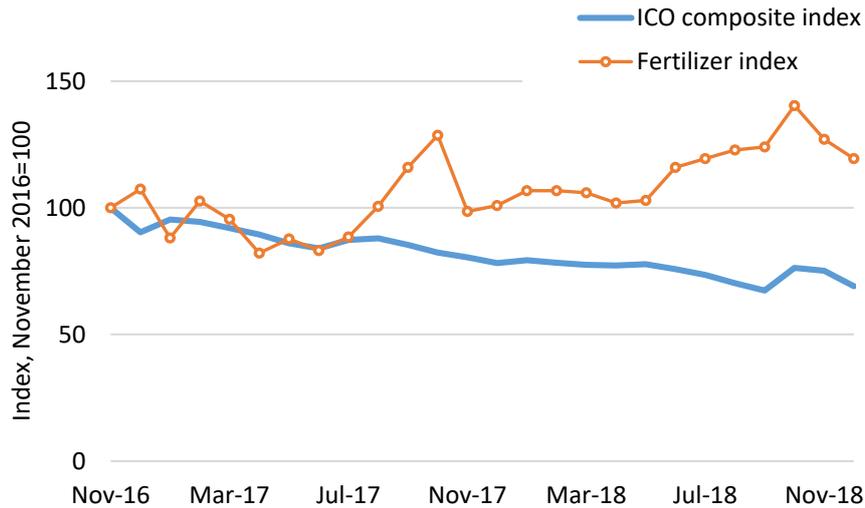
II. 肥料農薬など農業投入物価格の最近の動き

3. コーヒー価格下落の影響を検証するためには同じ期間の生産コストの推移を理解することが重要である。現在の価格低迷の状況において投入物 (agricultural inputs)の取得コストがコーヒー農家の利幅に深刻な悪影響を及ぼす可能性がある。コーヒー生産における主な投入物は、労働力、肥料、農薬であり、これら投入物の相対的重要性は農業経営のシステムと当該国の置かれた状況により異なる。

4. コーヒー生産で収量改善のために最も広く使われている栄養素は窒素、リン酸、カリウム (NPK) で、無機系また有機系どちらでも良い。無機肥料は生産性を向上させるために最も広く使用されている栄養素である。

従って肥料価格の変動を以て、コーヒー農家が過去2年間に直面した投入物コストの変動を測ることに使用した。図4はICO複合指標価格と肥料価格指数の動きを示している。2016年11月から2018年12月までの間に肥料価格は19.4%上昇しているが2018年最後2ヶ月間は6%下落している。

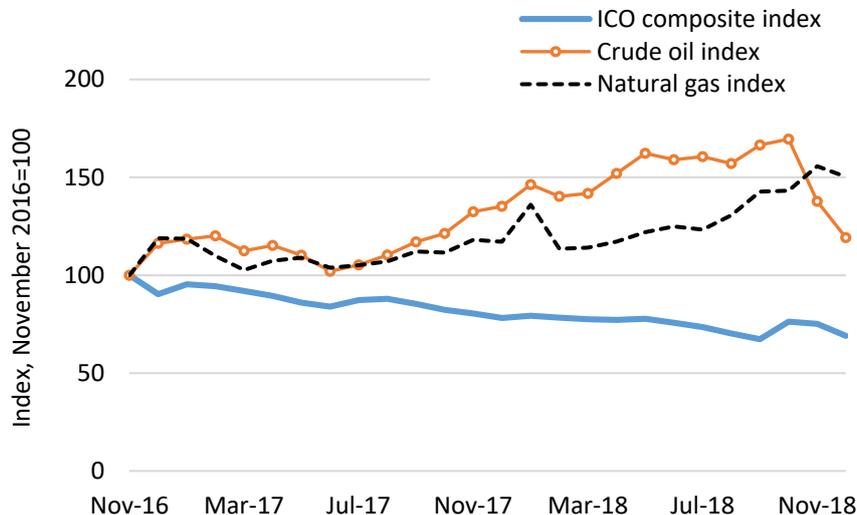
図4：ICO複合指標価格と肥料価格指数、2016年11月=100



Source: ICO

5. コーヒー農家と地域社会に対する低価格の影響を検証するうえで、生産コストを構成する他のコスト要素の価格変動も重要である。図5は、輸送コストは肥料価格と強く相関していることから、生産コストのもう1つの重要な要素としての石油製品の指数を示している。2016年11月から2018年12月の間に原油価格は19.2%上昇し天然ガスは50.3%上昇している。

図5：石油製品価格指数、2016年11月=100



Source: World Bank commodity price data, February 2019 and ICO

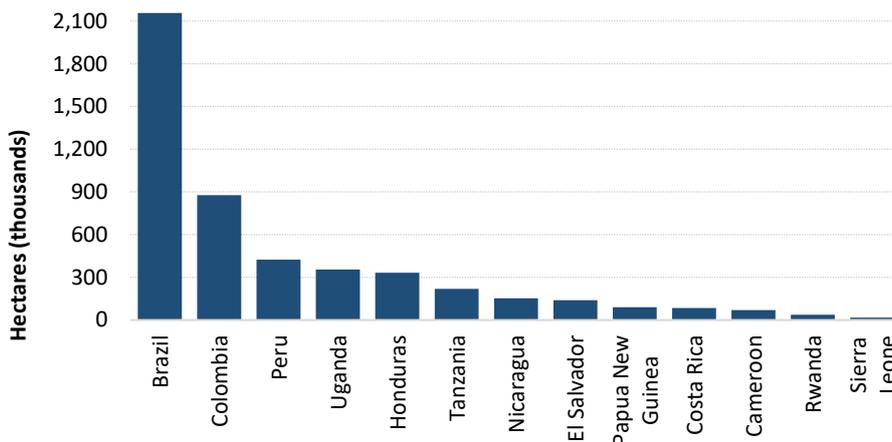
III. 選択された生産国におけるコーヒーセクターの規模

6. 本調査の第一部としてICO加盟輸出国におけるコーヒーセクターの規模をレビューした。その回答は、コーヒー生産の地域、農家数、農場規模の分布、男女別の雇用および所有権など世界のコーヒーセクターを特徴づける多様性を示している。

コーヒーの耕作地、コーヒー農家および平均農場規模

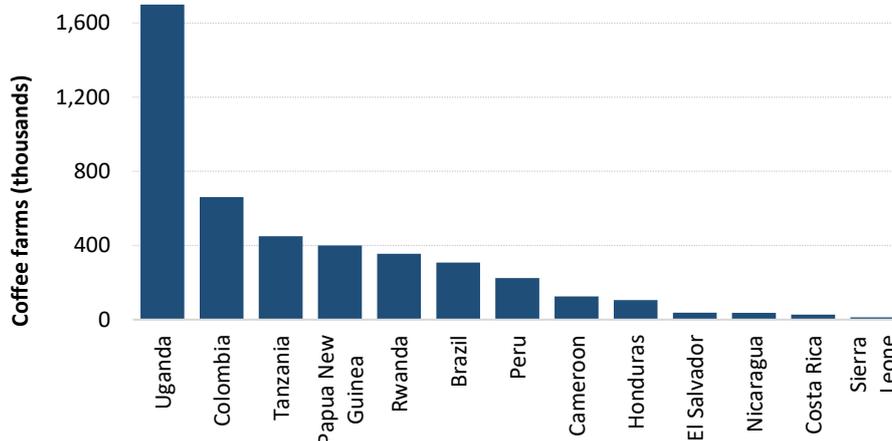
7. コーヒー耕作地は、シエラレオネの17,000ヘクタールからブラジルの216万ヘクタールにまで及ぶ（図6）。ブラジルは最大のコーヒー耕作地域を有するが、ウガンダは最多のコーヒー農家数（170万農家、図7）を抱える国であり、国によって農場の平均規模は大きな差がある。図8は加盟国の報告に基づく各国の農場規模の平均を示している。

図6：コーヒーの耕作面積



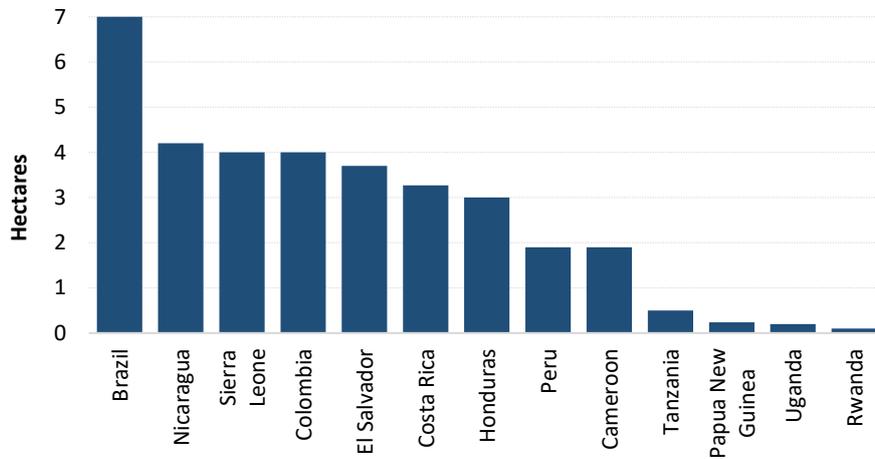
Note: The data corresponds to estimates for different years, depending on each country

図7：コーヒー農場の総数



Note: The data corresponds to estimates for different years, depending on each country.

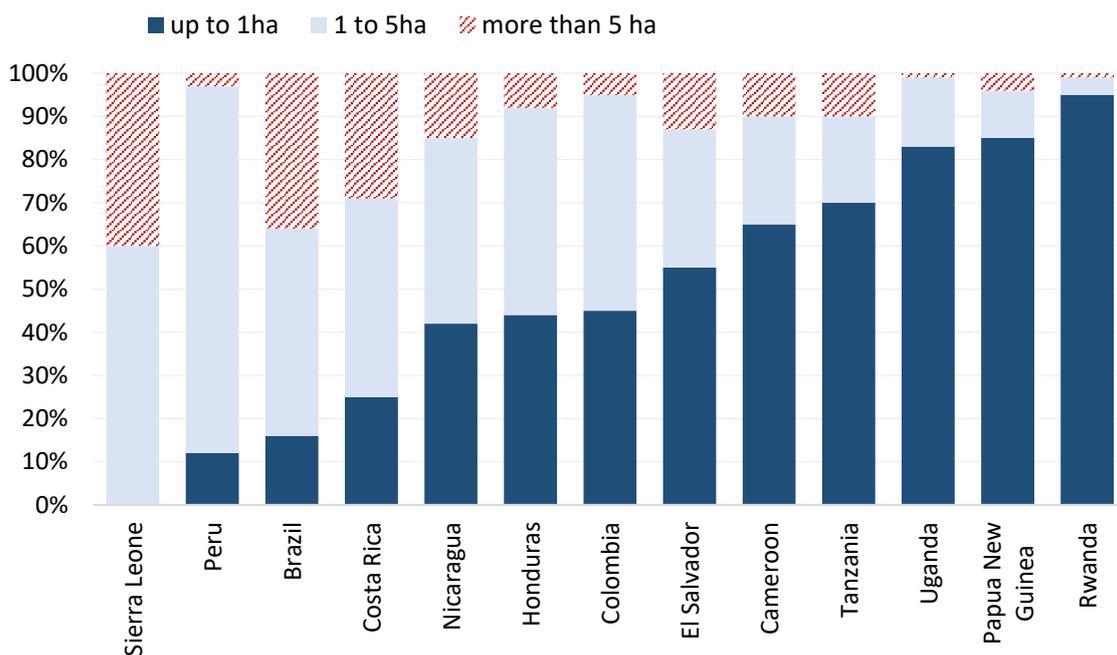
図8：農場規模の平均



Note: As reported by Members, calculations based on area and number of farms might differ slightly for some countries. Corresponds to estimates for different years, depending on each country

8. 輸出国における農場の規模別分布を、1ha未満、1haから5ha、5ha以上の3つのカテゴリーで調査した。図9は国ごとの農場規模の分布における差異を示している。ルワンダが小規模農家（1ha未満）の割合が最も高い国であるのに対し、ペルーは中規模農家（1haから5ha）の割合が最も高い。ブラジルとシエラレオネのコーヒー生産を特徴として5haを超える農場の構成比率が高く30%超を占めている。

図9：サイズによる農場の分布（%）

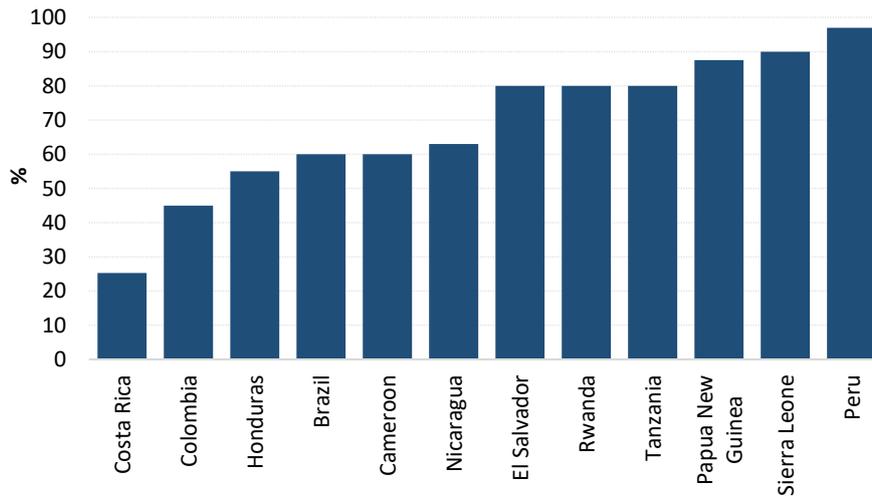


Note: The data corresponds to estimates for different years, depending on each country.

雇用

9. 図10は、クロップイヤーを通じて主に家族労働を使用し追加作業員を雇用しないコーヒー農園の割合である。生産国推定に依る。

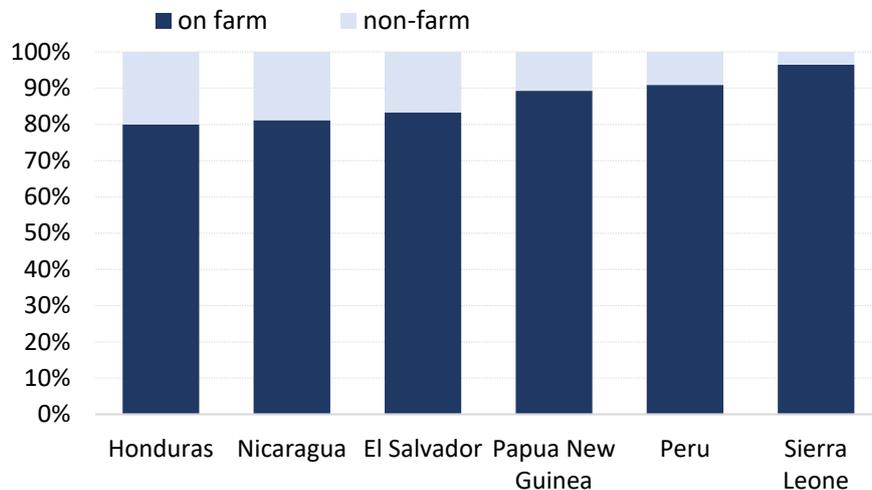
図10：家族労働だけで営まれているコーヒー農園の割合



Note: The data corresponds to estimates for different years, depending on each country.

10. 12の加盟国報告によるとコーヒーセクターでは2,500万人を超える雇用が生まれ出され雇用のほとんどはコーヒーの農場で創出されている（図11）。従って、生産者に支払われるコーヒー価格の変動は雇用水準に影響を与える可能性がある。

図11：コーヒーセクターでの雇用分布（農場と農場以外）

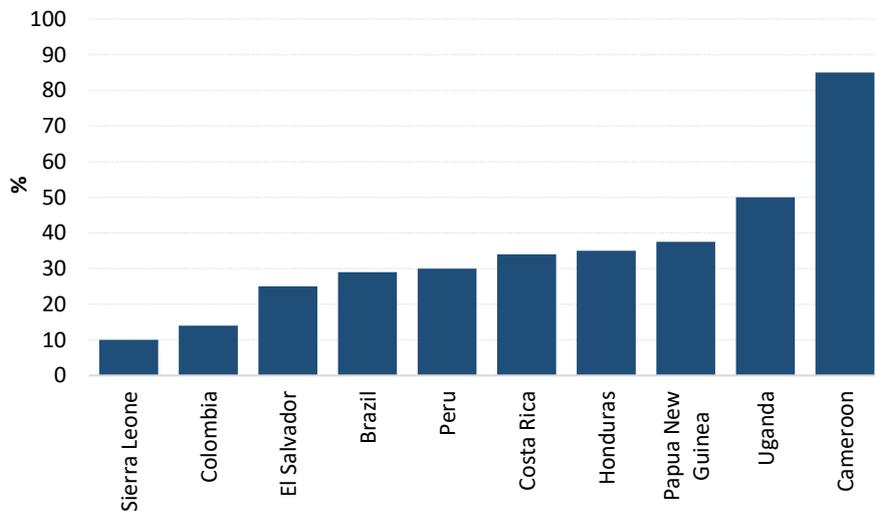


Note: The data corresponds to estimates for different years, depending on each country.

女性の役割

11. 女性はコーヒーセクターの発展に重要な役割を果たしている。コーヒーセクターにおける雇用の平均35%が女性である。国によって異なるが、例えばカメルーンでは従業員の85%が女性であると報告されているのに対し、シエラレオネでは女性従業員は10%に過ぎない（図12）。

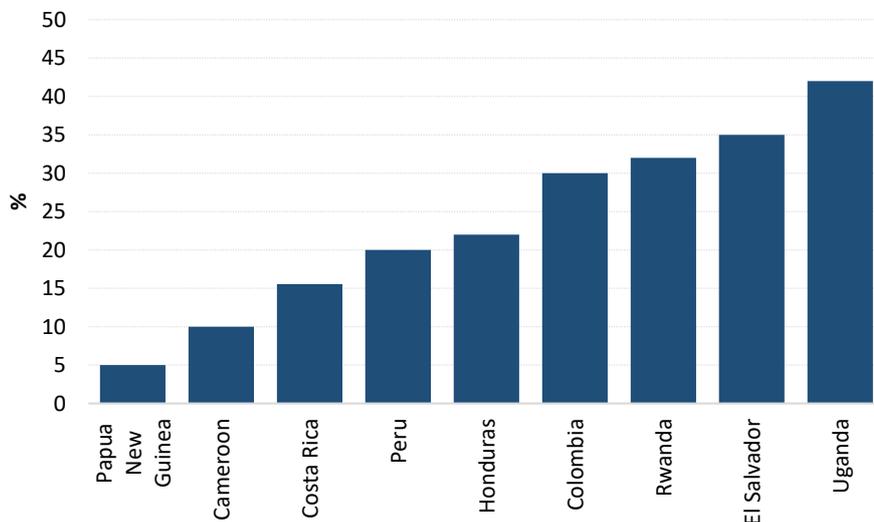
図12：女性の雇用割合



Note: The data correspond to estimations for different years, depending on each country.

12. 農場所有关于は、女性が所有するコーヒー農園は平均すると全体の24%であり、パプアニューギニアの5%からウガンダの42%に及ぶ（図13）。

図13：女性が所有するコーヒー農園の割合

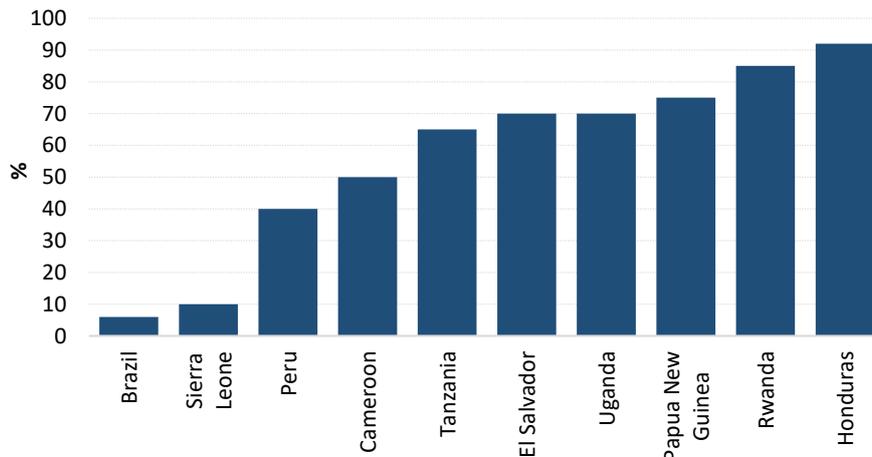


Note: The data correspond to estimations for different years, depending on each country.

収入

13. コーヒーは多くの農家にとり収入源として不可欠である。コーヒーが主な収入源として総収入の80%以上を占める農家は平均で全体の60%を占めている（図14）。この割合は、ホンジュラス（92%）とルワンダ（85%）が非常に高く、それぞれのコーヒー輸出額は輸出総額の12%と9%を占めている。

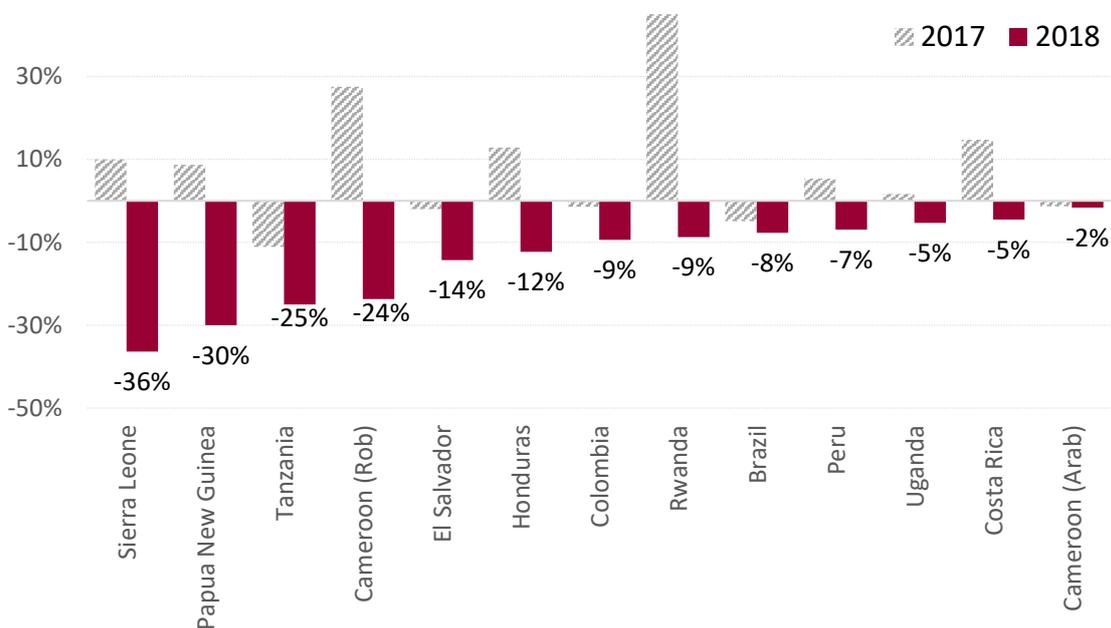
図14：コーヒーが収入の80%以上の占める農家の割合



Note: The data correspond to estimations for different years, depending on each country.

14. 加盟輸出国により2015年から2018年までにコーヒー1kgに対して生産者に支払われた平均価格の報告を得た。2018年に生産者に支払われる価格が2017年に対し平均14%減少したことを示しているが、減少の幅は-36%から-2%に亘る（図15）。

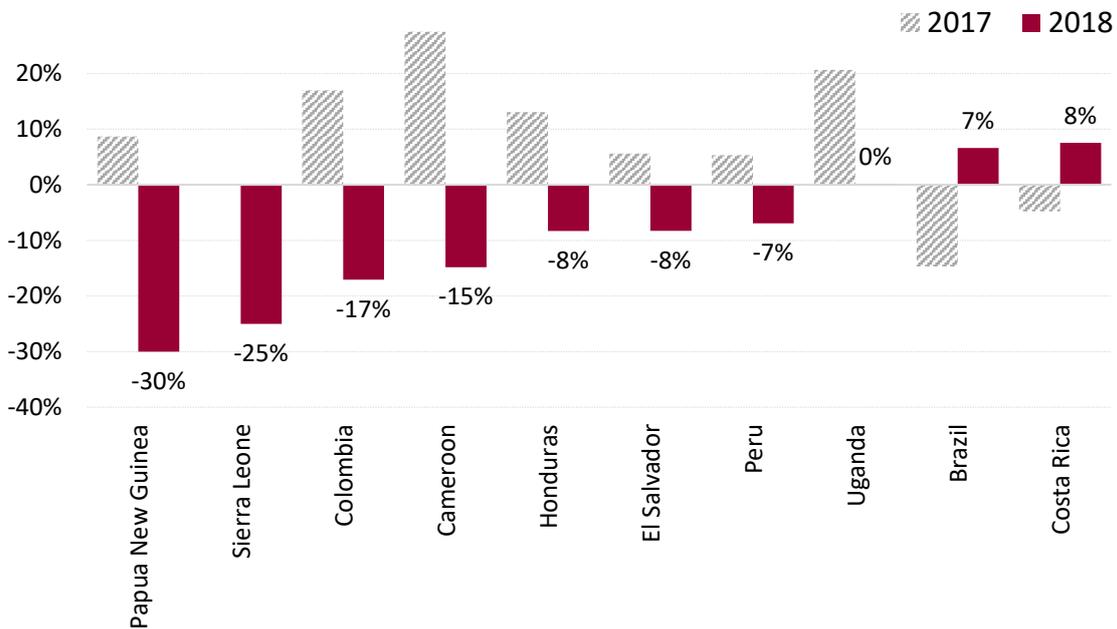
図15：生産者に支払われるコーヒー1kgの平均価格の年次変化



Note: ICO calculations.

15. 生産者に支払われる価格の下落は彼らの年間収入に反映されている。これは農業収入の低下、農業賃金の減少、そして農業雇用の喪失を意味する。図16は2017年と2018年のコーヒー農家の年間総収入の年次変化を示している。加盟国の提供情報によると、2018年のコーヒー生産者の収入は平均10%減少し、パプアニューギニア(-30%)とシエラレオネ(-25%)が最大の減少である。ブラジルとコスタリカは2017年初めに収入の大幅減少があったことから2018年では価格下落の影響が相殺されている(図16)。

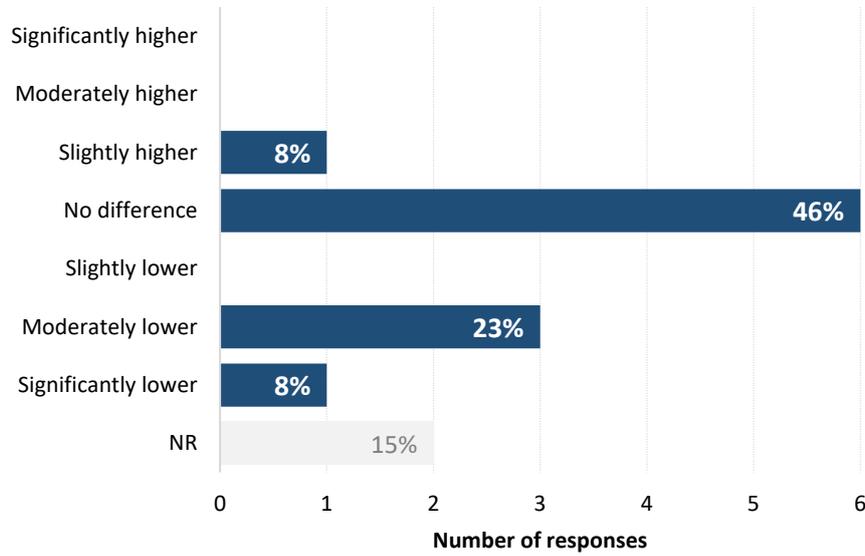
図16：コーヒー農家の平均年収の年次変化



Note: ICO calculations.

16. 女性生産者の平均年収を男性生産者と比較し、著しく高いか、かなり高いか、やや高いか、差がないか、やや低い、かなり低い、または著しく低い、を示すことにより定性的な収入比較を行った。報告国のうち6カ国で性別による収入に差はないと報告されているが、4カ国では女性の収入が低い傾向がある(図17)。ある国は「女性農家が生産するコーヒーの大部分は専門市場向けであり、より高品質であることでより高価格が支払われている」と述べた。

図17：女性コーヒー生産者と男性コーヒー生産者の平均年収比較

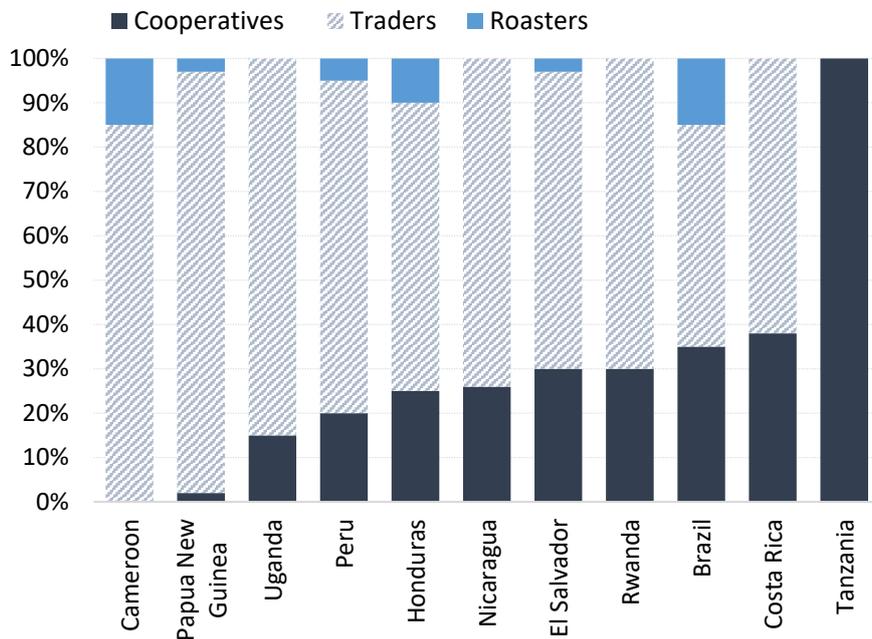


Note: NR - no response

取引関係

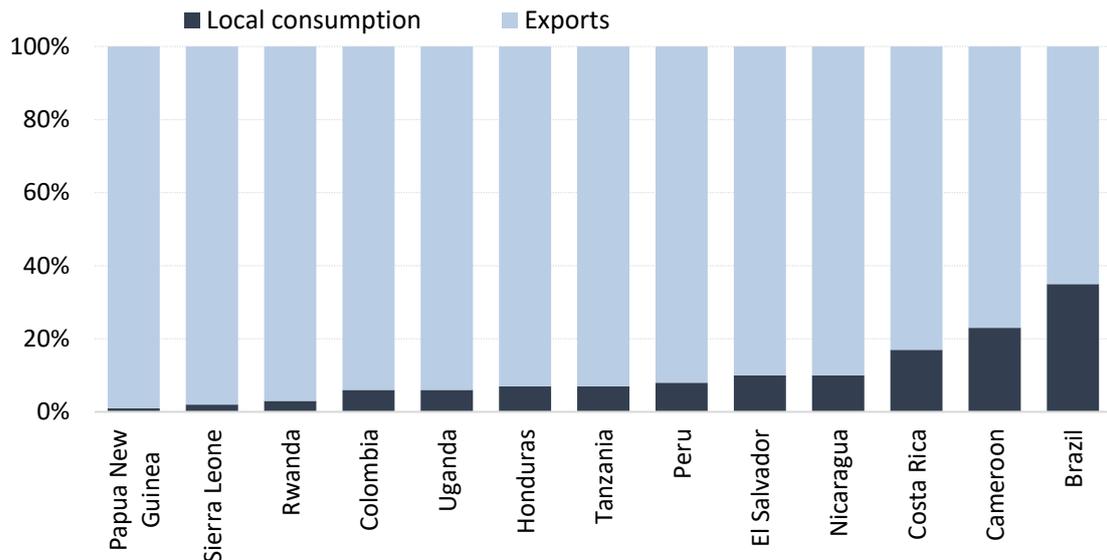
17. 多くの生産国で農家はコーヒーのほぼ全量をトレーダー（中間取引業者）に直接販売しているがタンザニアは例外で売上の全てが協同組合経由である（図18）。トレーダーへの売上げ割合は50%から95%、協同組合へは2%から38%だが、カメルーンでは協同組合経由の販売は無い。

図18：コーヒー買付業者の種別と割合



18. コスタリカ（17%）、カメルーン（23%）、ブラジル（35%）を除き、ほとんどの国で国内消費用に販売されているコーヒーの割合は10%未満であり、コーヒーは主に輸出向けである（図19）。

図19：コーヒーの国内市場向けと輸出向けの割合



IV. 国際コーヒー価格の下落傾向による影響

19. 調査の第二部では、現在の低水準のコーヒー価格が輸出国に与える影響を明確にする。調査では加盟輸出国に対し、農場投資、労働力、収入、社会的影響という4つの主な分野への影響の推定値を提供するよう求めた。

A. 農場投資

20. 投資への影響を評価するため以下の5つの質問がなされた。

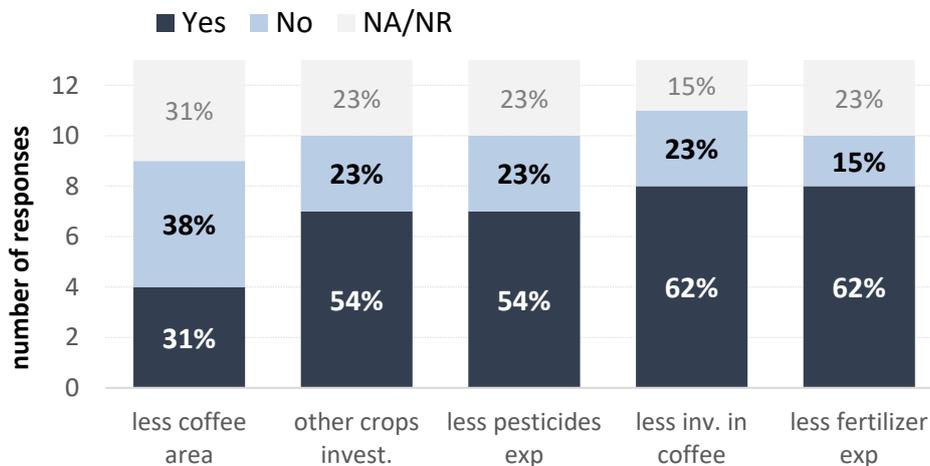
- 過去2年間に低価格のためコーヒー耕作地域（面積）は縮小したか。
（はい／いいえ／該当なし）
- 過去2年間に農家はコーヒーではなく他の作物に投資したか。
（はい／いいえ／該当なし）
- 過去2年間にコーヒー農園への投資は減少したか。
（はい／いいえ／該当なし）

- 過去2年間に農家による肥料の平均支出は削減されたか。
(はい/いいえ/該当なし)
- 過去2年間に農家による農薬の平均支出は削減されたか。
(はい/いいえ/該当なし)

21. 回答が「はい」肯定であった場合、回答者には影響の量的推定を提供するよう求めた。図20はYes/No/NA回答の要約、図21-23は農場への投資に対する影響の量的推計の詳細である。

22. 農業投資に対しコーヒー価格の下落が与える最大の影響は、13の加盟生産国のうち8カ国が報告する通り、過去2年間に於けるコーヒー農園への投資全般の減退と肥料支出の減少である。これに次いで農薬支出の減少およびコーヒー以外の他作物への転作増加が挙げられる。価格の低迷の結果、4カ国ではコーヒー耕作地域が減少している（図20）。

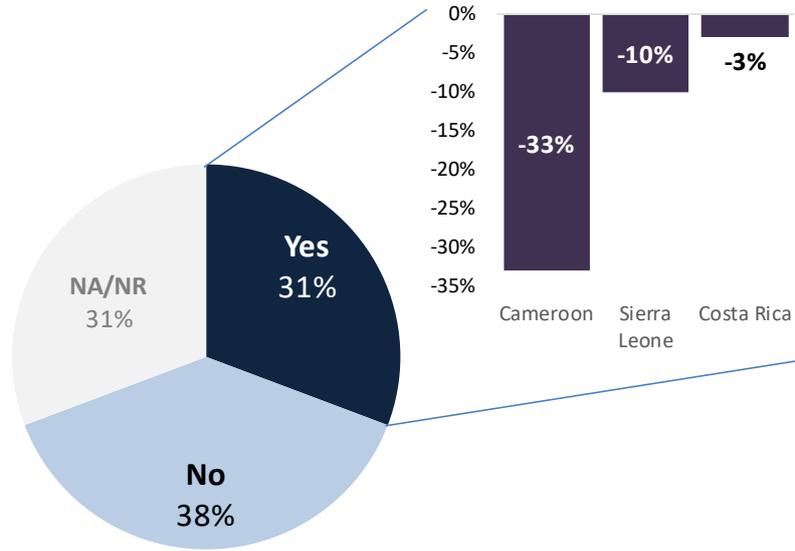
図20：コーヒー価格の下落が農場投資に与える影響



Note: NA/NR - Not applicable / No response.

23. コーヒー耕作地域の減少が報告されたのは13カ国中4カ国のみだが、このうち定量的な影響を報告した3カ国における影響の規模は図21の通りである。カメルーンではコーヒー耕作地域の30%が減少し、シエラレオネでは10%、コスタリカでは3%が減少した。ペルーも減少を報告したが定量的な推定はされていない。

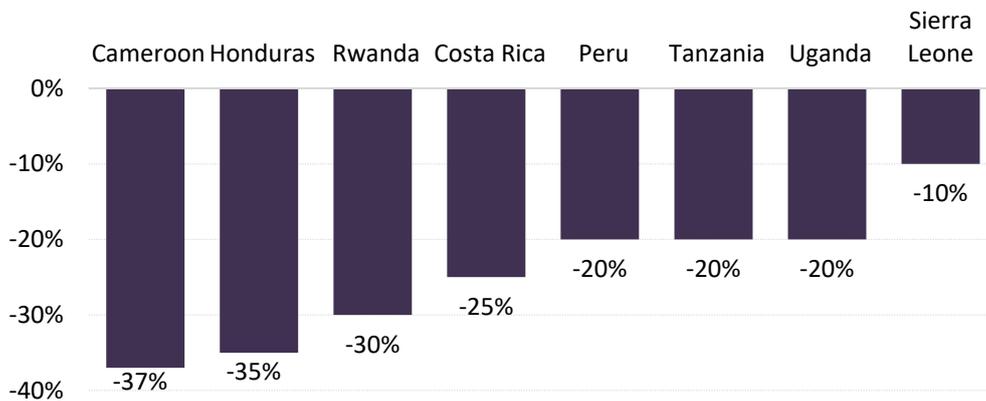
図21：価格下落の結果としてのコーヒー耕作地域の減少



Note: NA/NR - Not applicable / No response.

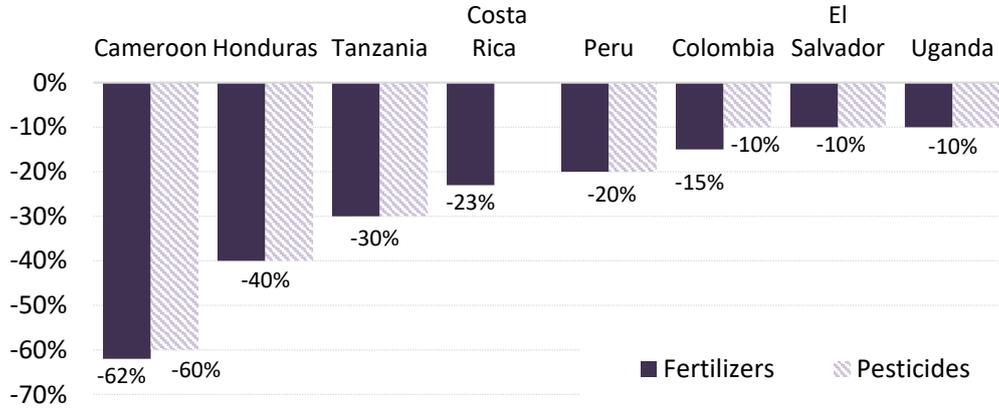
24. 国際コーヒー価格の下落の結果として、コーヒー農場への投資は過去2年間で平均して25%減少しており、37%の減少を報告している国もある（図22）。

図22：農場への投資の減少



25. 肥料と農薬への支出は農場投資と同様、過去2年間で平均26%減少している（図23）。

図23：肥料および農薬に対する農家支出の減少



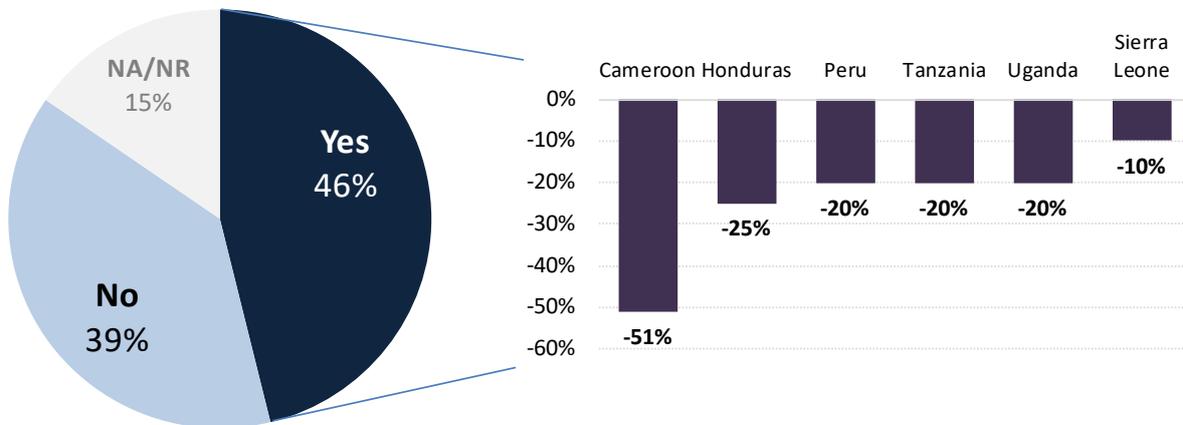
Note: Costa Rica reported a reduction in the use of fertilizers but not pesticides.

B. 労働

26. 価格下落の影響を理解するために、加盟輸出国に対してコーヒー価格の下落の結果として、過去2年間で農家がコーヒーの栽培および加工に費やす時間が減少したかどうか、そして農場の従業員数が減少したかどうかを尋ねた。肯定的な回答に対しては減少影響の定量的推定を求めた。

27. 6カ国（46%）がコーヒー価格の下落によりコーヒーの栽培および加工に費やす時間が減少したと報告した（図24）。減少の程度は各国平均で24%、最大はカメルーンだった（51%）。

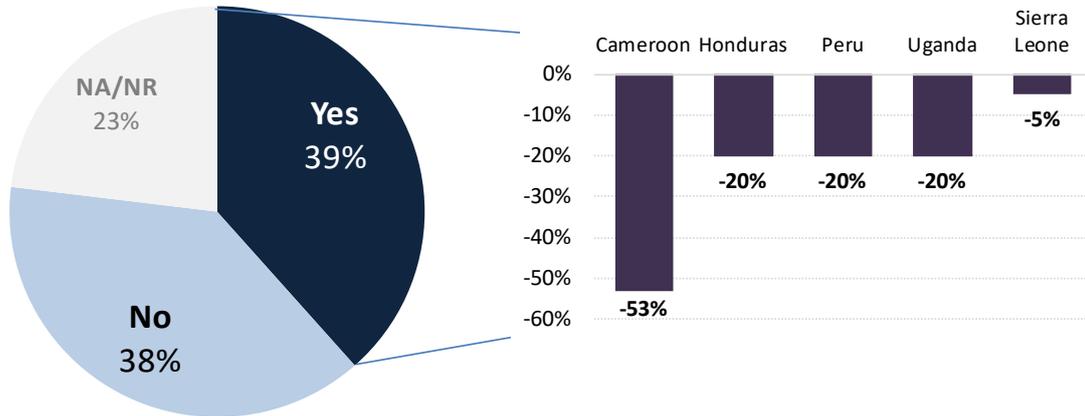
図24：農家がコーヒーの栽培および加工に費やした時間への影響



Note: NA/NR - Not applicable / No response.

28. 5カ国（39%）が国際コーヒー価格の下落の結果として農場での雇用減少を報告した（図25）。平均してこれら5カ国の雇用減少は24%で、カメルーンの53%からシエラレオネの5%に亘る。

Figure 25: Effect on on-farm employment

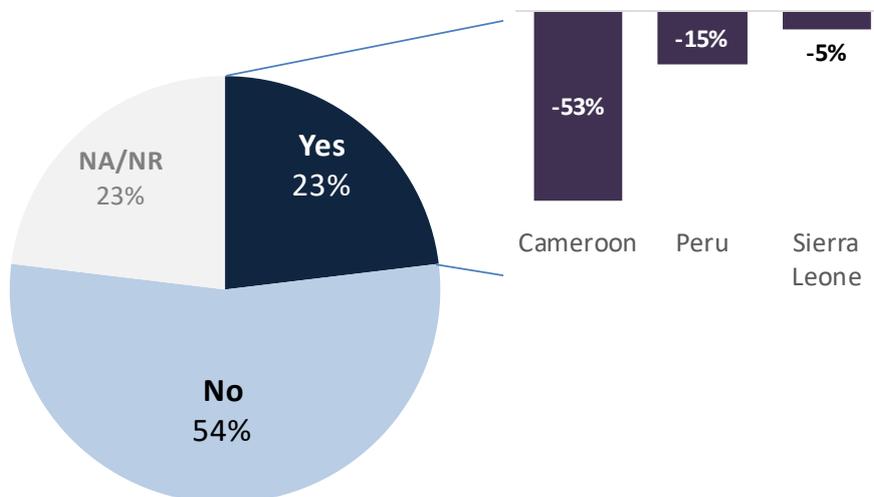


Note: NA/NR - Not applicable / No response.

c. 収入

29. 収入への影響について、農場で働く従業員の賃金とコーヒー農家の平均年収を尋ねた。ほとんどの国（10カ国）で農場従業員の賃金への影響はなかったが、3カ国から平均24%の賃金減少が報告された（図26）。

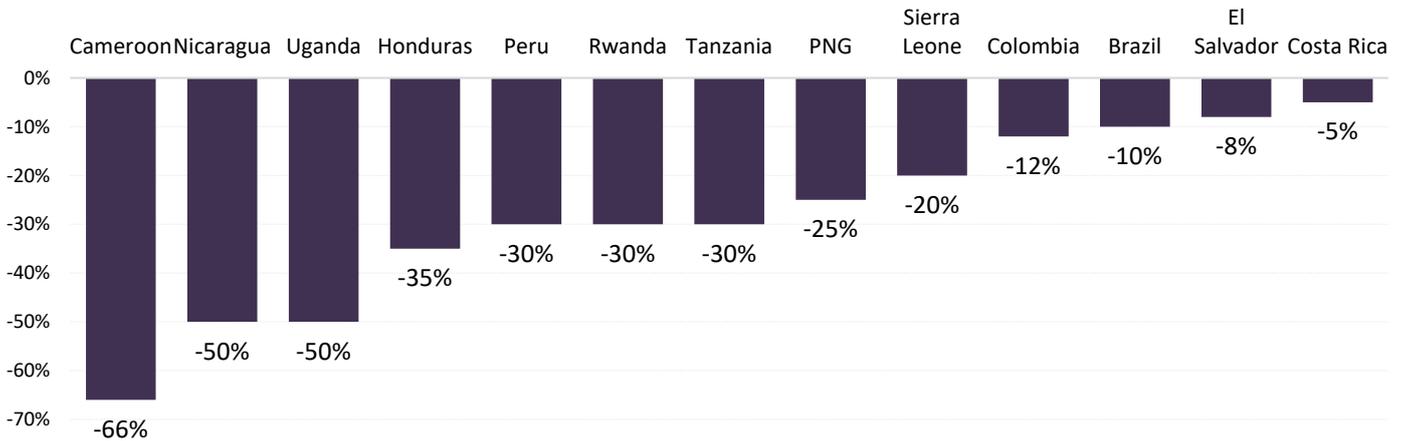
図26：コーヒー農場での雇用者賃金への影響



Note: NA/NR - Not applicable / No response.

30. 対照的に全ての国（13カ国）からコーヒー農家の平均年収が減少していることが報告された。図27は加盟輸出国によって報告された影響の定量的推定である。国際コーヒー価格が下落傾向を始めた過去2年間で平均年収は29%減少している。

図27：コーヒー農家の平均年収への影響



Note: PNG: Papua New Guinea.

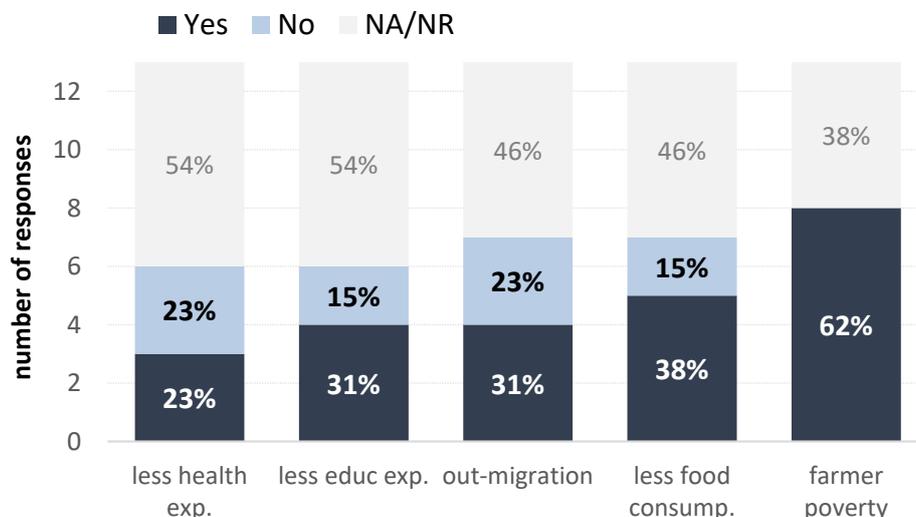
D. 社会的影響

31. 国際コーヒー価格の下落により農家の収入がかなり減少したことから、その影響が、農民の移住、貧困の増加、食料消費の低下、健康および教育支出の減少、など社会全般に亘ることがこの調査では考察された。図28がこれら回答の要旨である。加盟国から報告された主な影響として、過去2年間に1日を1.90米ドル未満／人（※）で暮らす農家の増加がある。また一部の国では他の社会的影響もある。食料消費の減少、コーヒー生産地からの農民の移動、そして健康および教育への支出の減少である。

（※）世界銀行による国際貧困ライン（2015年10月）

¹ World Bank's Global Poverty Line: <http://www.worldbank.org/en/topic/poverty/overview>.

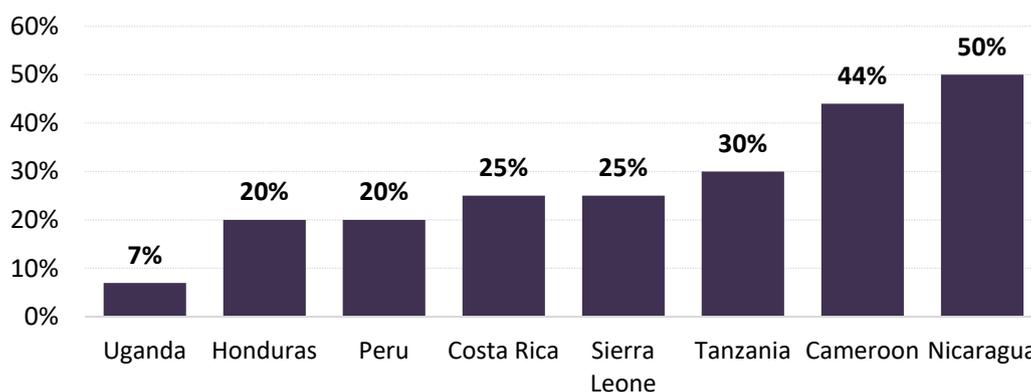
図28：13カ国のコーヒーセクターにおけるコーヒー価格下落の社会的影響



Note: NA/NR - Not applicable / No response.

32. 上記の図28に示されているように、社会的観点からみると、コーヒーは農業人口の定着と農村地域での雇用創出に重要な役割を果たしている。価格の下落圧力は、収入源をコーヒーに大きく依存する国々の経済的持続可能性を脅かしている。これは極度の貧困に苦しむ家計数を増加させる恐れがある。図29は加盟国の報告に基づくコーヒー農家の貧困の増加を示している。

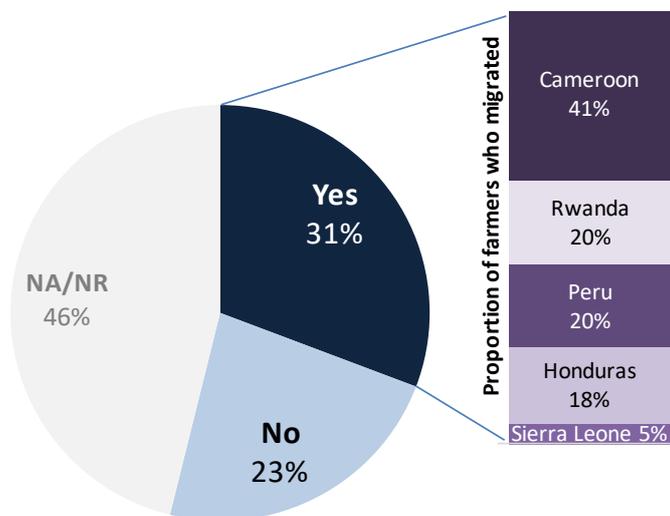
図29：1日を1.90米ドル未満／人で暮らすコーヒー農家の増加率



Note: NA/NR - Not applicable / No response.

33. 5加盟国から平均21%のコーヒー農家が自分の農場から移住したと報告されている。最大の影響はカメルーンで41%のコーヒー農家が農場を去ったとされる(図30)。

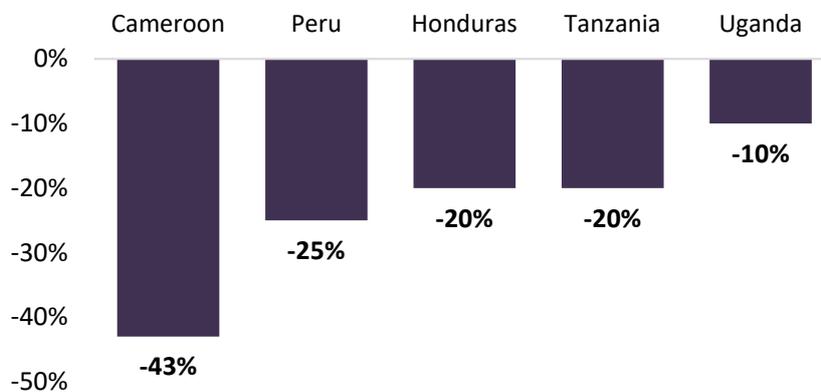
図30：コーヒー価格下落の影響によりコーヒー地域から移住した農民の割合



Note: NA/NR - Not applicable / No response.

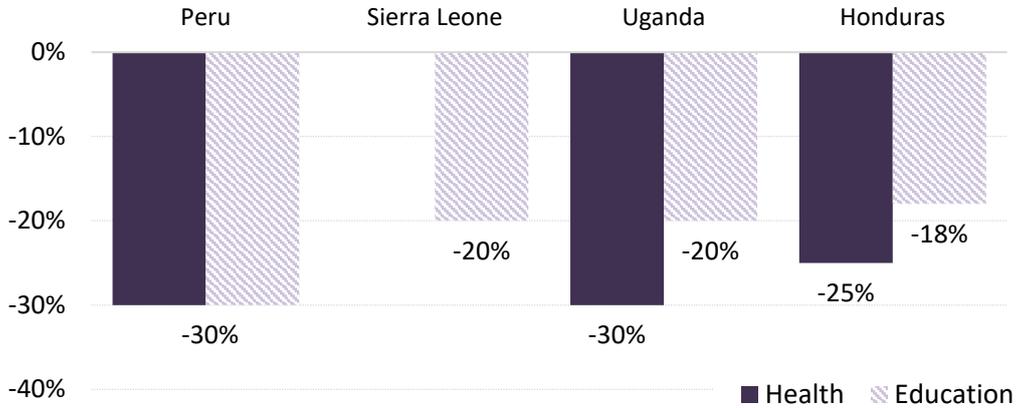
34. 価格下落による影響を報告した5加盟国の年間食糧消費は平均24%減少した(図31)。影響はカメルーンの43%からウガンダの10%に亘る。

図31：コーヒー農家の年間食糧消費の減少



35. 健康および教育への支出もまたコーヒー価格下落の影響を受けて加盟国平均でそれぞれ28%、22%の減少となっている(図32)。

図32：健康および教育に対するコーヒー農家の年間支出の減少

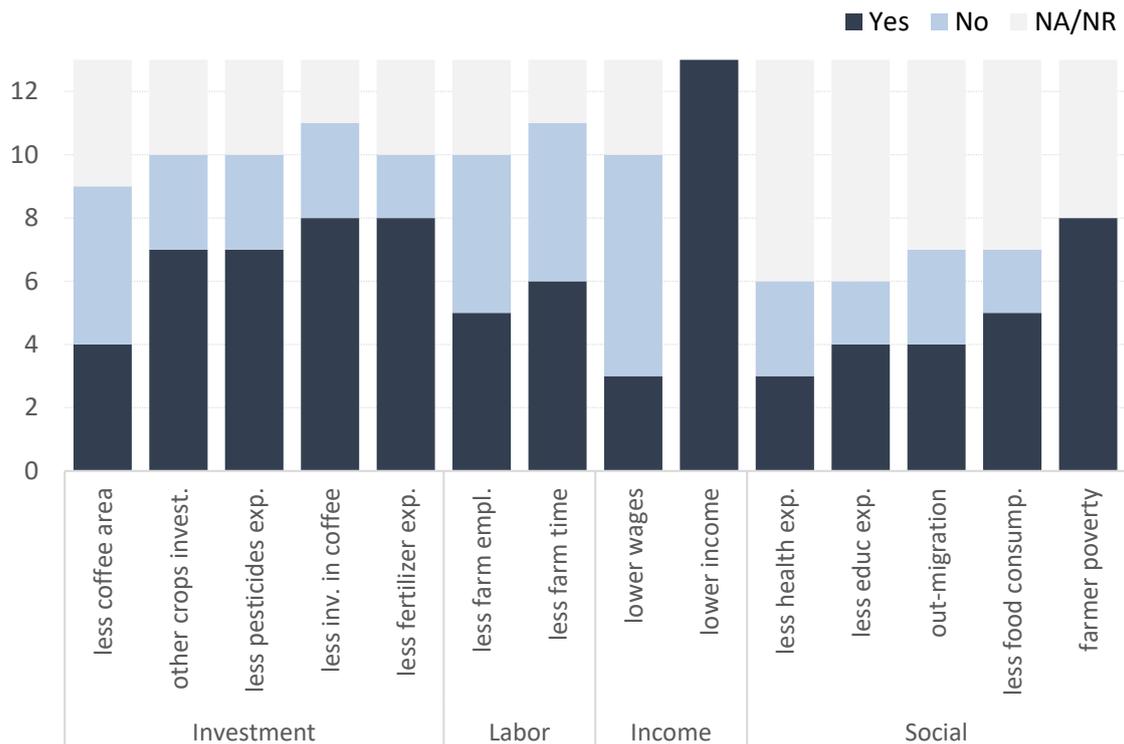


Note: Sierra Leone reported a reduction in education expenditure but not in health expenditure

本調査結果の要旨

36. 調査の第二部では国際コーヒー価格の下落による影響を受けたかどうかを尋ね、農業投資、労働力、収入および社会的影響に関連する14の分野について、その影響の推定値を提供するよう求めた。図33は加盟国から得られた回答の分野別要約であり、その全てから農家の収入には重大な影響が生じていること、次いで、貧困の増加、コーヒー農園への投資の減少、肥料や農薬への支出の減少、が報告されている。

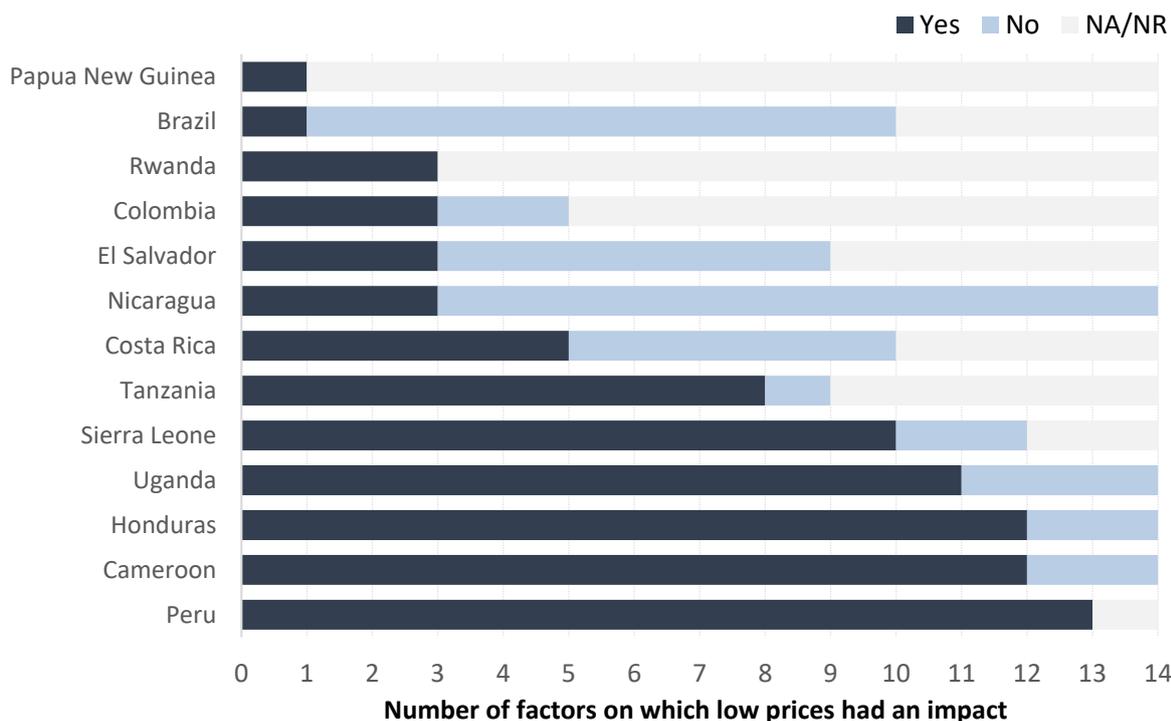
図33：価格下落の影響が発生した分野別の回答数



Note: NA/NR - Not applicable / No response.

37. 図34は加盟国が国際コーヒー価格下落の影響を受けたとする分野の数を要約している。ペルーはほぼ全ての分野で影響があったと報告しているが（13分野）、ブラジルとパプアニューギニアは1つの分野が影響を受けたとしている（農家の年間所得の減少）。

図34：価格下落の影響が発生したする回答分野数の国別内訳



Note: NA/NR - Not applicable / No response.

V. 結論

38. 国際コーヒー価格は過去2年間に著しい下落傾向にあり、このような負の傾向が続けば多くの生産国およびコーヒーセクター全体の持続可能な成長は脅威に晒されることとなる。一例を挙げれば、コーヒーを生産し販売することで得られる農家の収入減少と購買力低下は、品質と生産性を維持し向上させる農家の努力を損なっている。この影響は、肥料を集中的に使用している農家において特に強く過去2年間の肥料価格の上昇は状況を悪化させた。コーヒー生産における収益性が継続的に低下していることで大きな影響を生じている。

39. 現在の低価格水準の完全な影響を評価するのはまだ時期尚早だが、本調査はコーヒー輸出国、特に追加的な所得創出活動が限られている国々がすでに深刻な影響を受けているという事実とその根拠を提供している。単位収量、生産量、輸出実績、農場管理など、コーヒー関連の基本的な要因への影響を評価するには更に調査を要する。しかしながら過度の低価格は投資の減少および作物管理の悪化を招き、

品質、供給およびコーヒー産地の多様化に悪影響を与えることから輸入消費国も影響を受ける可能性があることに留意すべきである。

40. さらなる分析と継続的なモニタリングが、農家の生産コストと収益性、生計費やコーヒー生産者の基本的ニーズ（食品、衣類、教育、そして健康など）の完全な理解、ベンチマークとの比較、を含むより包括的なレポートの作成に貢献することになる。